

(1) 市長あいさつ

皆さんこんにちは。北九州市長の武内和久でございます。先ほどジャズを聴かせていただきましたが、海があってジャズがあって今日は本当に気分がいい 1 日になりそうです。このような門司の魅力、そしてこのまちが未来に向かってどの方向に進んでいけばいいのか、北九州を新しい時代にどのような方向へみんなが進めていこうか、今回はこれを考える 7 回目のミライ・トーク、門司区のバージョンということになります。本当に多くの皆様にこの週末お集まりいただきましてありがとうございます。

私も門司に来ますと毎回気分がよくなります。海もあり、歴史もあり、好きな居酒屋さんも色々な酒屋さんもあります。本当にいろんな歴史や自然、そして人の温かさ、色々なものが詰まっているのがこの門司の魅力だと思います。

130 年ほど前に、この門司港が特別輸出港に指定をされまして、日本中あるいはアジア中が門司を見ていた時代、そして門司は世界を見ていたという時代が間違いなくあったわけです。その歴史を留めるような色々な建物もたくさんあり、三宜楼なども最近外国人の方が来られた時にはお連れしたり、清滝に行ったり、いろんなものが詰まっているのが門司の素晴らしさだと思います。

先ほどおっしゃっていましたが、音楽やアートなどを引き出してくれるインスピレーションにも満ちたまちだと思います。夏目漱石が坊ちゃんを書く前に門司に滞在したとか、三島由紀夫が関門海峡を日本の縮図だと言っていたとか、いろいろな人がこの門司の地でいろいろな刺激を受けて新しい文化や産業や新しい歴史を作ってきたという歴史を持った門司です。本当に偉大なものがたくさんあるので、これを引き継いで、さらに発展させてどんなまちにしていくのか、どういう立ち位置でこれからの門司の未来を描いていくのか、ここが大きな課題になってきます。

足元を見ればもちろん高齢化の波や産業構造の変化があり、もっと観光で力を発揮できるのではないかと、もっと歴史を活かした新しい人のつながりができるのではないかと、いろんなアイデアを私もそこかしこで伺っています。今日のパネリストの方々には本当に様々な分野で活躍されている多彩な皆さまがお集まりです。パネリストの皆さんと今日お越しの皆さん、高校生も来られていますが、色々な話を聞いて新しい気付きを得て、そして次の時代のこのまちを、門司を、北九州市をどのように描いていこうか、そういう気付きと発見に満ちた時間になることを期待しております。

そしてこのミライ・トークは、各区の区役所の若手職員の方が工夫を凝らして、オリジナルなプレゼンテーションをするものも見どころとなっております。各区で若手職員の皆さんが様々な工夫をしておりますので、皆さんも楽しみにしていただきたいと思います。

新しい時代の北九州市そして門司の未来を考える素晴らしい 1 日になりますこと皆様をお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(2) パネルディスカッション

進行（沼田）：

皆さんこんにちは。三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの沼田と申します。この度ご縁がありまして、先ほど市長から挨拶がありましたように、北九州市のこれからの大きなビジョンを考えていく、そのお仕事をお手伝いさせていただいております。ここからはパネルディスカッションということで、北九州市、門司区の中で色々ご活躍されている皆様にパネリストとしてご登壇いただき、一緒にお話を進めていきたいと考えております。

それではパネリストの方を順番にご紹介してまいります。お一人目は、緒方 潔さんです。JR 門司港駅の駅長として令和 4 年度より就任され、門司港駅でのおもてなしの様子など、地元メディアでの取材も多数受けていらっしゃるということで、今日はイベント限定で着用される制服で起こしいただいており

ます。

続きまして、菊池 勇太さんです。合同会社ポルトのもとでゲストハウスを門司港で運営されています。岡野バルブ製造取締役も務められ、大英産業株式会社アドバイザー、その他まちづくり活動に多数関わっており、この中にもお知り合いがたくさんいらっしゃるのではと思います。

続いて、福岡 佐知子さんです。株式会社三角形代表取締役を務められていて、黒崎の寿通り商店街の再生・まちづくりなども手がけていらっしゃいます。その他、企画制作、地域活性、デザインの分野など多方面で活躍中でございます。よろしく申し上げます。

続きまして、西田 心平さんです。北九州市立大学地域創生学群教授でいらっしゃいます。ゼミ生とともに栄町銀天街内の「モノはうす」を拠点に地域活性化活動に取り組んでおられます。今日は西田ゼミの学生さん、森 那津実さん、加茂 彰史さんと一緒に来ていただいております。よろしく申し上げます。

そしてパネリストには、谷延区長と武内市長にも加わっていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ここからパネリストに皆さんにお話を伺っていきたくと思いますが、その前に区長から一言コメントをいただきたいと思います。

谷延区長：

皆さまこんにちは。4 月から門司区長を仰せつかっております谷延と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

私は門司での生活に大満足している区民の一人です。しかし、先ほどプレゼンでもありました問題の 1 つ、若者、人口減少に直面しています。自分が住んでいて、自分の体感満足度と違い、外の人がどのように門司を見ているのかというのが常に気になっておりました。その中で、全国放送の朝の情報番組を見ておりましたところ、全国で人気の美しい駅ランキングというものがありました。全国には約 9 千もの駅があるそうです。詳細は分かりませんが、門司港駅はなんと第 5 位に堂々ランクインしております。駅長おめでとうございます。紹介ナレーションでは、重要文化財の駅舎と噴水のコラボが美しいという内容でした。

しかし、私はここに赴任してきて、色々な方と会う中で、この美しさは建物だけではないと感じました。それは、門司港駅やレトロ広場では、駅員の方だけではなく、門司を美しくする会、婦人会、朝の体操をする人、またウォーキングをする人、みんながそれぞれゴミを拾っています。これはなかなか見えない部分です。駅舎等の構築物に、区民の気持ち、そして行動すなわち区民力が合わさっているからこそ、門司港駅は輝いているのだと思いました。

門司駅前も含めて、環境美化には門司区全体で多くの方が取組まれており、それはよく存じ上げております。一方でこの利他的な奉仕活動は、清掃だけではございません。子育て支援、そしてみなと祭、海峡花火大会の運営、そしてイベント時のバンドやバナナのたたき売りなど、まちづくりの様々な面に及びます。

着任以降、本当に皆さんと活動を共にさせていただきました。4 か月の短い時間でしたが、すぐく共通していることに気がきました。それは何かというと、活動中は皆さん活気に満ち溢れています。老若男女関係なく、皆さん活気に満ち溢れていて、終わった後は疲れたではなく、本当にすがすがしい顔をしていらっしゃる。これはやはり感動しました。そこまでして人を動かすものは、本当の強みであると思いました。

本当の強み、門司を好きという郷土愛、それを育むものは何なのかということずっと考えています。しかし、地元に住ると、暗黙の了解みたいなもので、意識したことがないかもしれないと、自分なりに感じる事が 2 つありましたので紹介します。私が 4 月の区長の異動時に、横におられる武内市長から、門司が持つポテンシャルはとにかく高いということをすごく熱く語っていただきました。その時に、私は門司に長く

住んでいるので、具体的にこれのことでしょう、と返せるかと思ったのです。高いポテンシャルについて、私は分かっているようで、具体的に説明できるかと今まで自問自答してきました。また NHK の番組を見てみると、俳優で歌手の菅田将暉さんという有名な方がいますが、菅田さんが音楽活動を始めたのは映画の撮影で門司を訪れていた時、海峡の向こうに沈んでいく茜色の夕日を見てインスピレーションを得たからだと言われていました。門司に住んでいるものにとって夕日は見慣れた光景で、常に沈んでいく。しかし、私の表現力の乏しさや感性の鈍感さもあって、茜色の夕日といった表現を使って人に紹介したことはなかったなと思いました。

視点に関して言えば、プレゼンの中で課題の一つとされていた、空き家の増加。起業、つまり会社を興す人にとっては初期費用が抑えられる、またレトロ感も調和するというメリットがあります。この発想の転換は実は今頃できたわけではありません。門司の歴史の中では根付いています。それは、こちらにあるバナナのたたき売りです。それはなぜかという、熟成の状況を見て、門司港で揚げた時にこれは余り物になるだろうというバナナを巧みな口調で売りさばき、エンターテインメント、つまり楽しさという付加価値をつけて利益を得ていくものです。まさに発想の転換だと私は思います。

門司のミライ・トークでは、パネルディスカッションの形式では珍しい、会場丸ごとワークショップというものを目指していきます。皆さんの言葉を先ほどの若手職員が注意深くつかんで、キーワードとして書いてまとめていき、もじもじミライの木で空間的に共有していきます。見える強み、弱み、見えていなかった強み、弱み、外部からの視点、発想の転換の視点、そして熱い思いをここに来られる方は本当に持っておられると思います。門司の将来に向けた議論の時間を皆さんと楽しみたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

進行（沼田）：

区長ありがとうございました。それではこれから順番にパネラーの方にお話しを伺っていきたくております。先ほど区役所の若手職員の方からもありましたように、ピンチをチャンスにということで、4 つぐらいテーマがあるのではないかと考えております。一つが“観光のブランディング”、それからその中で関係する“回遊性の向上”そして、“地域のつながり”や“若者が働く場、学ぶ場”が大事であるという話がありました。門司の未来と言ってもたくさんテーマがありますので、この 4 つに絞って色々とお話しを伺っていきたくております。

最初のテーマとしては、観光のブランディングということでお話を伺いたいと思いますが、若干時間が押している関係で、手短かに緒方駅長から門司、あるいは北九州の観光のブランディングというテーマまで何かお気づきになったこと、大事だと思われたことがあればお聞かせください。

緒方氏：

改めましてこんにちは。観光のブランディングにおいて、私たち交通事業者として何ができるかということで、門司港といえば関門海峡花火大会が駅としても最も大きなイベントであり、これに合わせて何か JR 九州として、門司港駅としてできないかなということで、弊社が誇る 36+3 という車両を使い、本当に豪華な、我々企画した側も乗れないような金額を設定させていただきました。駅の中で食事をしていただき、冷房の中で素晴らしい場所で関門海峡花火大会を見ていただきました。このような形で、門司港のブランドを皆さんと一緒にこれからも高めていくという役割を駅が担っていければと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。実際に観光列車をやっておられて、乗客のお客様の反応など特に印象に残ったことなどはありますか。

緒方氏：

北九州以外、本州からもお客様はたくさん来られていて、海峡の花火大会を見るのが初めての方もいらっしゃる、初めて来るきっかけになれたかなと思っています。感想としては、料理と花火大会の全てが素晴らしいということで、北九州、門司区が大好きになりました、という感想も多かったです。

進行（沼田）：

ありがとうございます。この観光のブランディングというテーマで少し話を続けたいと思いますが、福岡さんは黒崎の寿通り商店街のことに取組まれたり、そのあと門司に移ってこられました、このテーマについて何かお気づきのことはありますか。

福岡氏：

はい。今ご紹介いただいたように、拠点は黒崎の寿通りというところで仕事をしておりまして、昨年、縁もゆかりもなかった門司港へ引っ越してきました。1年間ここに住んでいる中で、日常の景色が本当に素晴らしく、時間がゆっくりと流れていて、帰るだけで、帰ってくるだけで癒されるというようなことが毎日のように起こっているなと思っています。その中で、自分の仕事の関係ではあるのですが、観光のブランディングについてお話しすると、先ほど緒方駅長からもありましたように、民間の力、得意分野を持っている民間の力というのはやはり偉大なと思います。どうしても行政的な考え方になってしまうと、色んないいところがあって、その中から取捨選択をしないといけないとなった時に、ブランディングというのは取捨選択をしたり、優先順位をつけていったりすることで、その土地の魅力を分かりやすく示す部分がありますが、民間の力で、得意分野があるところで取り組んでいくところの良さについて、今の話の中から私自身が気づいたところです。

進行（沼田）：

ありがとうございます。魅力を分かりやすく示す、というお話がありましたが、福岡さんにとって、示せそうな分かりやすい魅力とは、どのあたりになりますでしょうか。

福岡氏：

海峡ですね。時間があれば夕方、海峡まで、海辺まで散歩に行き、缶ビールを買って飲んでます。

進行（沼田）：

ありがとうございます。海峡の魅力というお話がございました。私事ですが、私のふるさととは神戸の西のほうでして、明石海峡が見えるところにありますが、明石海峡と関門海峡では全く広さが違います。関門海峡は本当に迫っているので、船が間近に見える。船員さんの顔も見えるのではないかとぐらいで、こんなところはおそらくどこにもないのではないかなと他所の人間としては思いますので、当たり前かもしれないですが実はこれはすごいことなのではないかと思っています。

観光のブランディングを考える時に、先ほど区の職員の方も自ら歩かれて、本当は10分で行けるところを30分かけて歩いたということで、回遊性の向上が課題としてあるのではないかという話がありました。この点について、緒方駅長からどうのことを考えておられるか、改善または活かしていけそうなことなどがあれば、コメントをいただきたいと思っています。

緒方氏：

回遊をなぜするのか、回遊する理由について考えると、美味しいものがあるとか、交通の便がいいとかこの二つのことが大事だと思います。なぜ回遊を向上させないといけないかというと、消費が増えるということなどがあるので回遊を増やさないといけない、向上させなくてはいけないと思っています。例えば、駅を中心として、下関も挟んだ関門エリアの回遊を向上させることも必要ですが、門司区の中で、例えば白野江地区や大里地区などの地点をいかにして便利に回るか、きっかけづくりも含めて、それを我々交通事業者が真剣に考えていなくてはと思っています。

進行（沼田）：

回遊性を高めていく工夫として、新たに線路を引くなどはなかなか難しい話ではあると思いますが、高めていく工夫として具体的に考えられるものはどんなものが対象でしょうか。

緒方氏：

ターゲットをいかに絞るかなのですが、10月にやろうと持っていることがあります。例えば駅と商店街、白野江地区とをどうしたらつなげられるかと考えました。門司港は景色が非常に素晴らしいですね。この素晴らしい門司港を背景に、例えばコスプレイヤーが写真を取ったら面白いのではないかと想着、白野江地区と合同で、北九州市から補助金もいただきまして、駅でコスプレができるイベントと商店街、白野江地区の3つをつないでコスプレイヤーの聖地化を図ろうと思っております。10月29日にありますので是非お越しください。

進行（沼田）：

ありがとうございます。福岡さんからも実際に暮らしておられる中で、いろいろ歩き回るとか回遊して回るのが難しい面があるのかもしれないですが、そのあたりも踏まえて回遊性についてお話しいただけますでしょうか。

福岡氏：

皆さんからまちの外れと言われるところに住んでいますが、自分からしますと駅から10分ぐらいのところなのでそんなに外れているわけでもないとは思いますが、例えば私の家から菊池さんがされている宿まで歩いていくとすると、40分ぐらいはかかるので、バスが途中からあたりはしますが、その間の交通の手段で、例えば自転車、いろんなところで見られるようなレンタルサイクルがあまりなく、一応はあるのですが借りられる場所が遠かったり、そこまで行くのに時間がかかったり、不便だったり、開館時間に合わせてレンタルできるようになっているため、少し不便だと感じています。おそらくこれは、観光の方も困っていらっしゃる、観光の方が困るということは、地元の方も困っているのではないかと思います。門司港は幸いたくさんの観光の方がいらっしゃるの、そこを起点に交通の手段というのを小さく考えていけると、それを地元の人も利用したりしていい相乗効果みたいなものが生まれるのではないかと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。例えば回遊していく中で、途中の道などで、ここで休憩して見える景色はきれいだという場所があればご紹介いただけたらと思います。

福岡氏：

いろんな道があって、旅気分、商店街の中や横路地など小さい店を見つけてそこで買い物したり

など、そういう楽しみはすごくあります。

進行（沼田）：

ありがとうございます。

菊池氏：

間に入らせていただいて申し訳ないのですが、先ほど控室で福岡さん、緒方さんと話をしていて、回遊性の向上、交通の話なのですが、レンタサイクルは本当にあったほうがいいと思っています。いま、コロナで人力車も撤退してしまい、タクシーの運転手の方も高齢化が進んでいるということで、車両はあるのですが運転手さんがいないので、タクシーも走っていないという状況です。また西鉄バスさんも地元住民の足だけで使うと赤字だからと便数は減っています。実は JR 九州さんも門司港に行く便などは通常便の便数を減らしてきている、ということで、やはり観光の人と日常で使う人、両方をうまく抱き合わせて交通を作るというのは、喫緊の課題ですぐにしなければならぬと考えています。

具体的な解決策は、観光地と街中を結ぶ、スローモビリティのようなものについては、地域でいくつか実証はしていたりするのですが、色んな地域で実証しているような回遊性の高い、時速 20 キロぐらいで走るものがずっと回っている状況を作るとか、レンタサイクルを網目のようにスポットを増やすということもそうです。いま、モビリティはかなり進化ってきて都市の規制緩和、交通の規制緩和等も進みつつありますので、そういったものは門司港などでは地域住民の生活の足と観光の足で実証しやすいエリアだと思います。門司区は大動脈である 199 号線と 3 号線があるので、物流との兼ね合いが難しいとは思いますが、そこはチャレンジしてみても面白い施策ではないかと思っています。おそらくこれをしなければこの先 10 年人口も減り、観光客の向上も難しい状況が続くのではないかと思うので、ここは肝のところかと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。回遊性の話というどうしても足回りの話になって、電車がない、バスがない、という話になりますが、いまお話しいただいたように、いろんなタイプの手段の交通手段が出ているので、実際にそれを色々と試してみるのに適した場所であるというコメントを菊池さんから頂いたかなと思います。

それでは、もしまたきっかけがありましたらこのテーマにも戻ってこようと思いますが、次のテーマとして、地域のつながりという話が出ていました。いま地域に入られて実際に様々な活動をされているということで、西田先生と学生さんのお話も交えて、どんな活動をされているのか紹介方々お話しいただければと思います。

西田氏：

私たち、北九州市立大学の地域創生学部の中で、ゼミ活動の一環で、すでに話題が出ております門司港での観光地と隣接した栄町銀天街と言われる場所で、本来は観光客の方々の回遊性を向上させることを目的に活動させていただいております。今日はむしろ、その活動の中で、内側で、学生たち自身が感じている本音の部分なども皆さんに共有できればと思っています。その一つが、観光地とは違う地元、住民、商店街という地域というものの、見方によっては老害とか、しらがみとおっしゃるかも知れませんが、学生や私はいずれも外の間人ですが、そういう人間から見てそのような地域の方々の顔の見えるコミュニケーションや地元の方々から受けるつながりというものに非常に価値を感じている部分があるわけです。その部分について学生の本音、感覚について話してもらおうかなと思います。

学生（加茂さん）：

西田ゼミ 3 年の加茂と言います。自分がゼミの活動をしていく中で、この門司港にある栄町銀天街で活動をしているのですが、店主さんとそこを訪れるお客さんのつながりが非常に新鮮に感じました。これは自分の地元には商店街がないというのが一つ理由ですが、そのつながりを見た時に新鮮さを感じましたし、同時に非常に興味深いつながりなのではないかと感じています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。若い視点から見るとこのようなつながりが新鮮だというお話をいただきました。

菊池さん自身は、色んなまちづくり活動をされていて、一方で色んな苦勞もあるのではと思いますが、そういうことも踏まえて今の加茂さんの話なども踏まえながら、何かコメントがあればいただきたいと思います。

菊池氏：

学生さんがいいことを言うというのは基本スタンスなので、私からは少し辛辣体験も交えながらお話しできたらと思います。

地域のつながりについては基本的に大賛成です。自分は門司港出身で 22 歳まで門司港に居まして、やはり出身地ということもあるので、門司港の方も非常に温かく受け入れてくださって、28 歳から戻ってきていますが、6 年間事業を営んでいる最中で色々な形で応援していただいたり、声をかけたりしてくださって、嬉しい一面もあります。ただ、今は大人になってうまく付き合えるようにはなりましたが、若いころ、学生時代などは、やはりこういうしがらみが面倒くさいからこのまちから出たいというのは正直な本音でした。実の親との仲もそんなに良くないといいますが、あーしろ、こうしろとうるさく言われたこともありまして、地域の文化や歴史を重んじましょうというのは大変重要だと思うのですが、個人的にはそのような側面も必要だし、もともと門司港は塩田ですし、外の人が入ってきているんなことが生まれているまちなので、地域との温かいつながりやコミュニティみたいなものは非常に重要だから大事にしながら、そこまで地域のつながりに依存せず、飛びぬけた活動、尖った活動が学生さんも含めてできるようになるとより良いのではないかと思います。そういうことをしてもやりやすい空気感みたいなものは徐々にできてきてはいるので、どんどんそういうことが生れてくるといいのかなと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。今、菊池さんから本音の部分も含めたコメントいただきましたが、加茂さんが実際に地域に入っていっしょやる中で、時に戸惑うこともあったかもしれないですし、地域のつながりを新鮮に感じられる中で、印象に残ったことがあれば少しコメントいただけたらなと思います。

学生（加茂さん）：

自分たちが活動していく中で、ゼミでイベントや企画を積極的に実施していますが、毎月商店街の方たちとお話する機会、座談会というのがあって、その中で自分たちがしたいことを詳しくお話しすると、「いいじゃない、すぐやろう」と非常に快く受け入れてくださって、こういう部分でつながりができているなと感じます。また、地元の小学生や高校生とも自分たちは少しつながりがあって、そういう方たちと商店街の方たちをうまくつなぎ合わせる存在に少しずつなっていると思うので、こういうところにつながりがどんどん生まれたいかなのではないかなと考えています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。実際に地域のつながりができていて、先ほど高齢化が進んでいるという話もありましたが、そのつながりの中で若い人の色々な活動をぜひ皆さんで応援していただいているような循環ができればいいなと思いました。

やはり若者がその地域に残っていくためには、若者が働く場、学んでいく場ができていくのが大事なのではないかと思いますが、先ほど菊池さんから 22 歳までここで育て 6 年後に戻ってこられたというお話がありましたので、その点についてコメントをいただけたらと思います。

菊池氏：

自分はそもそもマーケティングやブランディングを専門の領域として仕事を長くしてきたのですが、自分の両親は印鑑屋なので、自分がマーケティングの仕事に就くといったときに、食べていけるのか、その仕事で何をするのかと言われていました。どんな仕事でお金を稼ごうとしているのかと言われて、これは世の中の大半の人たちの生活をより良くしたり、大きな仕事の時には必ずマーケティングが入っているんだ、という話をしても両親はあまりピンと来ていない様子でした。なぜそういうことになるかという、門司港や門司には企業さんがかなり少ないというのが実態で、若い人の雇用という傾向的には大卒の人間はこの土地には居なくて、中学の時にやんちゃしていたような、自分の友達なんかはみんな地元に残っていたりします。やはり基本的に高学歴で職種として頭脳を使うようなソフトの仕事をしていく人というのは、地域から出て行っています。実際に自分が戻ってくる時も、起業という選択肢を取ったのは、自分が望んでいる仕事は自分で生み出すしかないという感覚で作っています。やはり、学ぶ場や働く場というのは、非常に少ないので、いま自分は門司港でかなりクリエイティブな人材、ソフトの仕事をする人材を採用しながら、かつサービス業で宿や飲食もしているので、そのような仕事を作っています。ただ、まだまだ年収水準や環境というのは整え切れていないので、ここは自分だけではなかなか難しい側面もあるので、地域の企業さんたちと一緒に作り上げていきたいなと進めているところです。学習の機会や働く場所というのは、やはり門司より圧倒的に福岡や東京の方が優れているので、そこはまだまだ改善が必要かなと感じているところです。

進行（沼田）：

ありがとうございます。やはり特に大卒など学歴を付けた人間がより大きな都市に出ていくというのは全国的な現象かと思いますが、そんな中でももしよろしければ、菊池さんはなぜ帰ってきたのか、あるいは他に帰ってきている人間が周りに仲間であらうとして、どういう方がこちらに帰ってこようと思っているのか教えていただけますか。

菊池氏：

悲しいことに帰ってきた人間は全然いないんですよ。私が起業して移住してもらった社員とかメンバーはだいたい合わせると 40 人ぐらいで、門司港に移住してきたのはこの 5 年間でこれぐらいしか増やせていないという現状です。やはりそういった人たちは魅力を感じて移住してくれていますが、菊池君のやっていることはいいねと、自分の地元の友達や同級生もかなり応援はしてくれています。門司港の人たちの生活を何とかしないといけないという認識はみんなあるのですが、リアルな生活を考えるとなかなか戻ることができないという実態ではあります。ただここに関して自分は打破したいという気持ちがありますし、地元が好きだという気持ちもありますが、門司港がこのままでは少子高齢化の歯止めがきかず、地域産業の衰退と共にまちの生活水準が下がるということは、止めないといけないという使命感があって戻ってきているので、そういう使命感のある人間でなければ戻ってきていないというのが実態としてはあると思います。

進行（沼田）：

外から連れてきているという話もありましたが、その方たちはどうして、どこに魅力を感じて門司に来てもいいと思ってくださったのか、についてはどうでしょうか。

菊池氏：

ポルト（菊池さんの会社）の仕事のスタンスが面白そうとか、打ち出すビジョンがいいなどの、共感性も多少はあるかと思いますが、それを除いてもやはりまちの魅力としては、今日きかせてくださっている皆さんはおそらく年齢の上の方も多いと思うのですが、若者が来ると大体まちの方々歓迎してくれるんです。それこそ商店街の方々もそうですし、お店の人たちもそうですが、お昼ご飯を食べにいたりしたときにも声をかけてくれて、みんなが親切です。うちのスタッフは大体独身なのですが、たくさんご飯をもらいます。食べ物をいただいたり親切にもらう回数が圧倒的に多いのと、コンパクトなまちなのでよく人に話かけてもらえるというのもあるので、フリーランスで仕事をしていたりとか、ソフトで仕事をしているとデスクワーカーなので、ずっとPCに向かって仕事をしていると、自分が何をしているのか分からなくなる時があるのですが、まちの景色や日常の中で皆さんと触れ合うことで、何か人間味を取り戻せるというか、人間らしく暮らせるようなところがあるので、個人的にはそういう意味で働く人たちの環境としてはいい環境なのではないかと思っています。それこそ福岡にもそういう魅力があるので、福岡にも人が増えているというところもあるのだと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。まさに若者の学ぶ場というものは、大学はそのものだと思うのですが、それに関して西田先生自身もよそ者という話がありましたが、ゼミ生のお話も含めて、コメントいただければと思います。

西田氏：

教育機関、教員と言いながらも、実際は学生との活動を通して地域を知るという側面もあり、最初から地域のことが好きで知っているというわけではありません。色々と活動をしながらかさかされるという部分があるのは、やはり若手職員の方々の説明の中にもありましたが、門司という地域は歴史の転換点を古代から近代、現代まで経験してきた土地だからです。その中で色々な歴史が積み重ねられ、それをいま観光地という形ではありますが、その形で歴史をコンパクトにまとめられていて、地域そのものが学生にとって一つの教材となっています。歴史的な出来事や発見、建物など残っている歴史、史跡といったものが、私自身もそうですし、学生にとっても魅力的で魅了するものがあります。地域そのものが歩いて、見て学ぶ教材となっています。この点について学生の声も聞いてみたいと思います。

学生（森さん）：

西田ゼミ 3 年の森 那津実と申します。私は大学進学のために北九州に来たため、門司の知識はゼロの状態でした。そしてゼミに入って 2 年近く、栄町銀天街を中心に活動をしてみて、門司に関する知識も身についたと思いますし、人としても少しは成長できたのではないかと考えています。だからこそ、門司の歴史や色んな人を通じて感じる資源について知ることが、私の中での大学での学びになっています。西田先生もおっしゃっていたように、地域全体が私が学ぶための教材になっているため、学ばば学ぶほど門司港が好きになっていくというのが、私自身が感じる学ぶ場なのではないかなと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。学ばば学ぶほど門司港を好きになっていくということでしたので、門司の好きなおとこや、こういう部分に触れたからこそ人として成長できたと感じられたところなどありましたら教えてください。

学生（森さん）：

私が門司港を魅力的だと感じたことは2つあります。1つ目はみなと祭です。私たち西田ゼミ生はみなと祭にサポートとして入っているのですが、みなと祭に参加する前に大学で西田先生と一緒に地元のお祭りの歴史について学んでいます。そういう所で、門司港でこんなに前からみなと祭が行われていたんだと知る機会になりました。また、魅力探しを実際に歩いたりしながら行ったりして、私自身は特に区役所に何度か訪問させていただき、区役所の中の一般の方が見られないようなところもたくさん巡らせていただきました。そこで見つけた大理石の階段やすごく綺麗なスタンドグラスだとか、そういった魅力が積み重なったことで、このような魅力を持った施設が私たち大学生の学ぶ場所の一つになればいいなとすごく感じています。新しい教育機関を作るというのももちろん良いのですが、門司港というかまち全体が教育機関になれるような可能性を秘めているのではないかと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。門司区役所にはわたくしも一度、打ち合わせでお伺いしたことがありますが、中でやられている業務は通常の市役所なのですが、上を見上げると非常に重厚な建物で、こういう所で学んだりとか暮らしたりできるのはすごく豊かな環境だなと感じました。

(3) 質疑

進行（沼田）：

皆さんにご協力していただいたおかげで4つのテーマについて一通りお話をお伺いできました。ここで会場からもたくさんアンケートにご回答いただきましたし、先ほど紹介のありました、もじもじミライの木にもたくさん付箋が貼られてきました。ここからはご来場いただいた皆様にアンケートの内容も踏まえながらコメントいただけたらと思います。本当にたくさんご回答いただきましてありがとうございます。全部はご紹介しきれないと思いますが、ぜひ色々なボランティア活動などをされている方に、その時のやりがいや動機などをお聞きしたいと思います。

まず、「4's プロジェクトで門司港の魅力を伝える、門司港をテーマとしたイベントを開催しています」と書いていただいた方はいらっしゃいますか。敬愛高校の方ですね、どちらでも結構ですので、もしよろしければお願いします。

参加者 A・B：

私たちは門司港の地域の活性化をテーマにした音楽イベントを、8月27日にミクニワールドスタジアム北九州という場所で開催します。これは元々7月9日に開催する予定だったイベントでしたが、避難指示が出てしまうほどの大雨に見舞われて中止にして、またリベンジで開催できることになりました。

進行（沼田）：

ありがとうございます。イベントを企画している時にこれが楽しいと思われるときはありますか。

参加者 A :

フィールドワークといいますが、出店してほしいお店を訪ねたり写真を撮ったりするために門司港に来たときに、自分たちが今まで知らなかった魅力がたくさんあって、中には門司港に一回も来たことがないという生徒もいて、そういう人たちが門司港のことを好きになってくれたことが自分としてはすごく嬉しくて、その魅力を来てくれたお客さんにも知ってほしいと思ったのでこのイベントを来週日曜日に開催します。

進行（沼田） :

ぜひ楽しみに、皆さんにもいらしていただけたらと思います。ちなみにお 2 人は将来について、どうしたいか、どんな仕事がしたいか、その時にここに住んでいるのか、いやそれはちょっと東京じゃなきゃ無理だと思っていることはありますか。

菊池氏 :

門司に居ますと言わなきゃいけないような空気感がありますが、正直に言って大丈夫ですよ。

参加者 A :

自分はまだ何になるか迷っていて、自分が住んでいるのも門司港ではないですが、でも門司港は好きなので、地元に残れば残りたいなどはすごく思っています。

参加者 B :

私も門司に住むかどうかはわかりませんが、自分がしたいものが見つからないため起業とかをやってみたいなところがあるので、別のところでやったとしても、今回高校生でこのプロジェクトに参加して知れたことを別の場所で発信して、それを聞いた人たちが逆に行ってみたいと思うこともあるので、ここに住まなくても違うところで門司を発信できるような仕事とかできたらいいなと思います。

進行（沼田） :

情報発信ができるような仕事で、魅力を伝えてそれでまたお客さんが来てくれるようなという感じですかね。

参加者 B :

そうになったら嬉しいですね。

進行（沼田） :

ありがとうございます。続いてお聞きしたいと思います。「職場で門司を美しくする会に参加しています。清掃活動もやっています。」ということで、将来像としては「ぜひ子どもが多いまち、子育てに協力的なまちになってほしい」と書いてくださった 30 代の方いらっしゃいますでしょうか。子育てに協力的なまち、ということで、もし大変だと感じておられることとか、門司ならではの大変さというか、将来どんな風に子どもが育っていったらいいな等含めて、コメントいただければと思います。

参加者 C :

門司を美しくする会に参加させていただいている、古城保育園と申します。いつも園児と一緒に地域の方々と手を取り合いながら清掃活動に参加させていただいているので大変ありがたく思っています。その中で、地域を味方につけることが大事だなと感じています。私自身、保育園で働かせていただいています

が、やはり地域の方から声をかけていただけると子どもたちも安心して過ごせていますし、たくさんのイベントにも参加させていただいていますが、その時々に見に来ていただいて、この前よかったね、かつこよかったね、と声をかけていただけたところがとても素敵だと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。あともうひとつくらいお聞きしたいのですが、門司大翔館高等学校の方で、「観光客に魅力を再発信できるようなそんなまちになったらいいなと思いました」と書いてくださった方、お願いします。ぜひあなたならどんなことを発信したいか、どのような感じでPRしたいか、もしアイデアがありましたら教えてください。

参加者D：

本校の門司を応援する取組みを2つ紹介します。本校では「じーもパン」を地元のパン屋さんと共同開発したり、門司の観光マップを日本語、英語、韓国語、中国語の4か国語で作ったりしています。そのように私たち高校生にもできることはたくさんあると思うので、これからも若者たちで門司をよりよくできるようにしていきたいと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。特にどの辺を発信したいとか、観光マップの中で推しているところはあるのでしょうか。実物を持って来てくださっていますね。

参加者D：

まず門司港で言うと、果実堂とかき氷屋さんがありますが、私もまだ行ったことはないのですが、写真を見てとても素敵なお店だなとか美味しいそうなかき氷があるんだなと思いました。また、こちらの近くにあるカフェも、こちらは行ったことがあるのですが、そのお店の雰囲気も赤レンガがあってとてもレトロな雰囲気でいいなと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。行ったことがない所にもぜひご本人も行っていただければと思います。

菊池氏：

かき氷くらいはおごりますので、門司港に来てくれたらぜひ言って下さい。

進行（沼田）：

ぜひ行ってください。ではもう一校、門司学園高等学校の方から「未来について考える姿勢が門司区の魅力だと思います」と書いてくださっています。ご自身が門司の未来についてどう考えているのか、またどうすればもっとみんなが考えてくれるかというようなことも含めて、もしコメント出来たらお願いします。

参加者E：

私自身はじめてこのようなイベントに参加させていただいて、あまりこれまで門司について考える機会が学校を含めてそんなになかったような気がします。改めて私たち若者が1人1人将来について考える事、こういう機会を、いま門司の高校に在籍している人たちに機会を提供していただくということが大事なのではないかと思いました。

進行（沼田）：

ご自身が思う、2、30年後の門司について、住んでいるか住んでいないかということも含めて、こんなまちになったらいいなということや、その中でご自身と門司との関係について、住民なのか時々帰ってくる故郷なのかわかりませんが、こうなっていたらいいなと思う将来像などがもしあれば教えてください。

参加者 E：

将来ここに住んでいるかはまだちゃんと決めていないんですが、将来、門司に時々帰ってきても、色々な人を誘って楽しむことができる場所や美味しいものを食べられる場所など魅力を紹介できるようなまちに今以上になってほしいなと思います。

進行（沼田）：

もし今ならよその人が来たらどこに連れて行ってあげるとか、特にここへというのがありましたら。有名なところでなく誰も分からないという所でも全然構わないです。

参加者 E：

私は門司港にある、ぶぜんというお店がすごく好きなので、そこに行けたらいいなと思います。

菊池氏：

渋いですね。

進行（沼田）：

全然構わないと思います。ありがとうございます。

時間の都合でご紹介しきれれておりませんが、いろんな熱いメッセージがこんなにびっしりと書いているアンケートというのは、なかなかこういう仕事をしていても見る機会が少ないです。本当にみんなびっしりと書いてくださってありがとうございます。とてもご紹介しきれないので全て区長に預けて後でしっかりと読んでいただくようお願いしたいなと思います。

（４）パネリストによる「〇〇なまち」発表

進行（沼田）：

時間も迫ってまいりましたので、本日の振り返りに移ってきたいと思います。パネリストの皆様にご本日もお話しいただいたことや聴衆の皆さんからいただいたご意見なども含めて、門司区あるいは北九州の目指す都市像として「〇〇なまち」ということでまとめていただきたいと思います。それではまず順番に、緒方駅長よりお願いしたいと思います。

緒方氏：

私の思いと皆さま方の思いを踏まえまして、門司が「最上のおもてなしの街」になればいいなと思いました。門司港駅は重要文化財でして、文化財だけでは思い出は残らないです。なので、駅員が、駅長が、例えばバナナのたたき売りをする、駅の紹介をするとか、そういったことをいま取り組んでおります。ですので、門司港にまた来たいと思っていただけるリピーターが増えるそんな街になればいいなと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。駅長が先頭に立っておもてなしをされているということかと思います。ぜひこれからも頑張っていたきたいと思います。では続いて、菊池さんお願いします。

菊池氏：

最近一番門司でおそらくホットな話題となっているかと自分では思っておりますが、これは最近メディア露出しております私の父親なんですが、“MOJiOJi”というお店を作りまして、“おじ焼き”を焼いています。これはどういうことかという、コンセプトは「おじさんはかわいい」ということで、私はおばさまも、お姉さま方もかわいいと思っています。何が言いたいかという、門司港は「ユーモアと愛のあるまち」だと思っていて、門司区や門司港の人たちはそういうところがあるので、私は面白いなと思っていて、「ラテン文化圏のようなまち」になってくれるといいなと思っています。社名の「ポルト」も実はラテン語で「港」という意味にしています。

心豊かな暮らしを中心にして、「経済（お金）よりも文化（愛）を大事にするようなまち」になってもらえるといいなと思っています。自分もそうしたいと思っているので、経済やお金は当然大事、門司の人たちもお金は当然好きだとは思いますが、それよりも「粋」だとか「愛」が大事だということ。先ほどジャズの話もありましたが、ジャズは元々ニューオーリンズで黒人の奴隷解放によって黒人の仕事がないから、たまたまその辺にあった楽器を使ってお金を稼ぎだしたところから生まれた文化だと思いますが、私はそういう気質が門司港にはあるなとずっと思っていて、自分自身もそういう気質なので、できればそういうまちにしたいなと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。続いて、福岡さんお願いします。

福岡氏：

皆さんのプレゼンなどをお聞きして「門司は 1 日にして成らず」ということを思いました。それはやはり山と海と歴史というところなのですが、それだけが素晴らしいのではなく、日々の暮らしが一番重要なのではないかと考えています。暮らしを続けていくことが文化になって、文化が続いていくことが歴史になると考えていて、私たちはいま、この建物もそうですが 100 年前の片鱗に触れながら暮らしているのですが、それは 100 年前の人たちが日々の暮らしを大切にしてくださったからかなと思っています、そこを大切にできるまちになったらいいなと思っています。

進行（沼田）：

ありがとうございます。フリップ 1 枚 1 枚に物語ができていました。ありがとうございます。それでは続いて、西田先生とゼミ生の皆さんで一言いただけたらと思います。

西田氏：

私たちからは「循環するまち」とさせていただきます。少し抽象的かもしれないですが、ここで申し上げたいのは、何を循環と言うかという、関係人口であったり若者だったり、そこで学ぶ知識であったり、そういったものが世代を超えてゆくりと循環するということです。当然時間はかかりますが、たくさん的高校生たちも発言くださったように、いろんな教育機関の人たち、小学生も含めて連携をさせてもらったりしています。そのような学ぶ人たち同士の接着剤に我々大学生ができればなりたいですし、そういう流れです。冒頭の説明にもありましたように、高齢化も進み、人口も減少して、教育機関も少なくなっていると

ということなのですが、我々でもよければ、この地域に興味関心を持っている若者はたくさんいますし、北九大の中でもそうですし、他の大学でもつながりが生まれようとしているというところで、しっかり接着剤となっていきながら、循環、人の流れを作っていきたいと思います。

そのためにご提案ですが、令和 9 年に完成が予定されている複合施設が、門司にも門司港にも建設予定となっていますが、学生の言葉にもありましたように、地域の現場の中に学ぶ場があるとなおいいと、地域を教材として学べるし好きになることができるということで、そういう場所をぜひいろんな人たちが学べる場として一角を活用させていただけたら、おそらくたくさんの若い人たちが利用したいと思うのではないかと思います。または、複合施設の建設に伴って、撤去が予定されている門司区役所や生涯学習センター等も含めて、そのような場所ももしかすると学ぶ場、学ぶスペースとして再活用することを考えていただけるならば、その接着剤となっていきたいという希望を持っております。

学生（加茂さん）：

自分がつながりという点でお話をさせていただきましたが、商店主の方とお客さんのつながりというのは小さいつながりだと思います。ですが、そこからだんだん地域のつながりや、小学生と高齢者の方など世代間のつながりがどんどん広がっていくのではないかと思います。この小さなつながりがどんどん大きくなっていくことで関係人口が増え、その増えた関係人口の方と地域の方が循環していくことで、この門司というまちは循環していくまちなるのではないかと思います。自分たちが企画したイベントもそうですし、みなと祭や子ども祭が栄町銀天街で開催されると非常に盛り上がるので、このようなつながりができた上で盛り上がるところが、栄町だけではなくどんどん門司に増えていけば、時間はかかりますが循環するまちなっていくのではないかと考えています。

学生（森さん）：

先ほど加茂くんから、子ども達ともたくさんつながっているとありましたが、私たちがいま、いろいろな企画やお祭りを通して子ども達と関わって、その関わった子どもたちが進学や就職を通して門司を離れたとしても、門司に戻ってまた生活したいとか、子どもが生まれた時に自分がこういう教育を受けさせてもらえたからやっぱり門司で子育てしたいなと思ってもらえるようなまちななれば、世代を超えて循環されるまちなっていくのではないかと思います。

進行（沼田）：

ありがとうございます。本当に素晴らしいと思います。最後に学生のお 2 人から素晴らしい将来像を示していただいたところで、ここまでの意見を踏まえて区長からコメントをいただきたいと思います。

谷延区長：

先ほど大学生がまとめていただいたような感じがしますが、皆様大変ありがとうございました。皆様の議論のおかげで、あのようにもじもじミライの木ができました。これをつないでいけば、皆さんの認知が一つになって将来像が浮かんでくるのかなと思いました。皆さんから発表いただいた「最上のおもてなし、リピーター」「経済より文化」「門司は 1 日にして成らず」「循環する街」ということで、キーワードは「つながる、循環する」。それは、観光客と地元の人に有用なものを作っていくと回遊性が回る、循環する。それはただ単に、物理的な回遊性だけではなく、年代的な回遊性、人との回遊性、心の回遊性かなと思いました。パネリストに皆さんをはじめ、視点や発想力の素晴らしさと門司の愛を実感しました。海峡や山、レトロな建物、関門橋などの構築物が織りなす風景を皆さんも想像できるのではないかと思います。そして夕風は、五感を刺激して人にひらめきを与えるのではないかと感じました。AI やコンピューターの時代にあっ

て、人のひらめきは今後求められるものなのではないかと思いました。このひらめきを生み出す門司の場を縦糸とするならば、ボランティアの気持ちを持った区民の力は横糸と言えます。縦と横の糸を紡ぐこと、すなわち場と心を掛け合わせて循環させる取組が、相乗効果を生んで門司の強みを発見し、将来の門司につながるのではないかと思いました。そういうことで例えば、クリエイティブ、創造性を求める職種にターゲットを絞ってアプローチをするというものありなのかなと思いました。

最後に、門司市名誉市民第一号の出光佐三さんをご紹介します。ご存じの通り、出光さんは24歳で仕事を辞めて、26歳に門司で出光商会を興し、1代でグローバル企業に成長させました。26歳というところにいる門司職員と同じ年齢で、また先ほどコメントいただきました大学生や高校生もあと少しでその年齢になります。その出光さんの言葉を一つ送りたいと思います。「陰ながら良いことを行い、譲り合いと助け合いの精神を持つ人が尊重される人間となる。陰徳と互譲互助の精神を持つ人」と言われております。このことを実行されているのが、先ほど皆さんが言われた、門司の人だと、ボランティアの人を含めてそう思います。門司のボランティアの方々とぜひ関わりを意識していただければ、若い人のひらめきというのは本当に現実的になっていくのではないかと思いました。10年後に向けて皆さんと考えたこのもじもじミライの木が大きくなって新たな木もどんどん増えて美しい森に成長していくことを本当に期待しております。共に考えていただいたパネリストの皆様、また来場者の方に感謝申し上げます。そして貴重な機会をいただきました市長にもお礼申し上げます。訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたい門司に向けて微力ながら全力でサポートしていきたいと思います。どうも今日はありがとうございました。

進行（沼田）：

谷延区長ありがとうございました。それでは結びとして市長からも本日を振り返って一言いただければと思います。よろしくお願いします。

武内市長：

今日は会場の皆さん、パネリストの皆さん、ありがとうございました。

いま、すでに7区でこのイベントをしているのですが、門司は少し違うなど、かなりユニークな独自路線を考えていなくてはいけないなど改めて思いました。やはり門司はいろいろなものが溢れている、ありすぎている。非常に歴史の厚みもありますし、海も海峡もある、様々な人の熱さもある、祭りもあり、色んなものがあるということで、少しこれは持て余しているところがあるようにも思います。なので、これをどのように使っていくのか、観光で頑張ってきた歴史もあり、これをもっと尖らせたり、モビリティの話も今日出ました。他方でこの厚みというか、面白みというか、深みというか。こういう部分は観光だけでなく今時代がぐるっと回って生活の方にも相当活かせるのではないかと思います。それはリモートワーカーの人やスタートアップの人、アーティストも居て、いま場所を選ばずにどんなところでも生活、あるいは仕事ができるという状況に変わってきました。よって、観光もちろん大事ですが、もう一度、生活を売りにする、そういう門司にしていくことが大事ではないかというインスピレーションもいただきました。今日話のあった、デザインやアートという切り口なのか、門司の持っている開かれたグローバル性とか国際性という部分なのか、あるいは若い人がいろんなことをチャレンジできる、こういう所でスタートアップ企業が入っていてもいいと思います。そのような、なんでもありのまちにするとか、オープンなあるいはフレキシブルなまちになれる可能性を門司は持っているのではないかという気付きも今日得ました。

その前提として、オープンでフラットな地域のなかの関係性とか空気感を作っていくことも大事ではないかと思いました。いずれにしても、門司の持つユニークさは北九州の中でもかなり珍しいもので、面白いものだと思うので、そこに即した思い切った手を打って、普通の産業ができて企業が出てきて、観光客が来てというだけじゃない、門司の道をこれから考えていきたいなど、そんなことを思った時間でございま

した。本当に皆さんご参加ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。以上をもちまして、ミライ・トーク in 門司区のプログラムを終了とさせていただきます。たくさんの皆様に足をお運びいただきまして誠にありがとうございました。

以上